

平成30年度 国立吉備青少年自然の家教育事業
吉備ボランティアスキルアップ研修

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

教育事業の実地踏査や支援方法等の研修を通して、活動内容や安全面について理解し、事業において適切な支援ができるようにする。また、吉備ボランティアとしての資質や能力の向上を図り、ボランティア活動に対する意欲を高める。

2. 事業の概要

(1) 期日

平成30年6月9日（土）～10日（日） 1泊2日

(2) 参加者

①募集対象・人数

吉備ボランティア（新規及び継続） 20人

②参加者

7人（新規3人、継続4人）

(3) 講師

国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職

(4) 企画・運営のポイント

- ① 昨年度に引き続き、吉備ボランティア養成研修後、すぐに実践を積むことのできる教育事業として、養成研修から3週間後になるタイミングでボランティアスキルアップ研修を企画した。
- ② 今回も、ボランティアスキルアップ研修の中に教育事業「ウーリークラブ～吉備の里山で子育て～」を組み入れ、フィールドワークや子供への接し方の実践ができるようにした。

3. 活動の内容等

(1) 日程

6月9日（土）		6月10日（日）	
13:00	開会式	6:15	起床・洗面
13:30	研修1「モラルについて」	6:45	清掃
14:30	研修2「ウーリークラブに関する フィールドワークなど」	7:15	朝のつどい
		7:30	朝食
17:15	夕べのつどい	9:00	ウーリークラブ打合せ
17:30	夕食	9:30	ウーリークラブ受付
18:30	研修3「ウーリークラブにおける 具体的な接し方や 声かけについて」	10:00	ウーリークラブでの支援
		12:00	昼食（レストラン弁当）
		16:00	閉会式、振り返り

21:00	入浴	17:00	解散
-------	----	-------	----

(2) 活動状況



【開講式】



【研修1 モラルについて】



【研修1 モラルについて】



【研修2 ウーリークラブに関する
フィールドワークなど】



【研修2 ウーリークラブに関する
フィールドワークなど】



【研修2 ウーリークラブに関する
フィールドワークなど】



【研修3 ウーリークラブにおける
具体的な接し方や声かけについて】



【ウーリークラブ アイスブレイク】

【ウーリークラブ受付準備】



【ウーリークラブ 河川敷大冒険】



【ウーリークラブ 飛び出せ自然探検隊】



【活動の振り返り】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：100%

(2) 参加者の声

- ① ウーリークラブの前にスキルアップ研修があつて良かったです。研修の中で、子供やその家族と関わることができ、学んだことをすぐに実践できました。2日間を通して、具体的な言葉かけの方法や対応策などを教えていただき、ありがたかったです。
- ② 今回初めて参加しましたが、子供や保護者の方とのコミュニケーションなどの回り方を楽しく学びました。事業の流れもスムーズで、ボランティアもウーリークラブの参加者もみんなが笑顔でいられたのが良かったと思いました。
- ③ 子供達を通る道で、危ないと思ったときにしっかり声掛けをすることができたので、学べたことが活用できたと実感しました。
- ④ 参加家族が吉備の自然にふれあい、楽しいという気持ちももてるように声掛けや接し方に気を付け、正しい日本語や笑顔に気を付けようと意識しました。一緒に活動したり、安全に活動ができるように周りを見たりして活動しました。まだ触れ合えてない家族の方もいらっしゃったので、次回もまた頑張りたいと思います。
- ⑤ これまでに吉備のボランティア活動には30回くらい参加していますが、もっとスキルアップ研修のような学ぶ場が増えてもいいと思います。

(3) 成果

- ① 吉備ボランティア養成研修から、1ヶ月も経たないうちにスキルアップ研修会を設けることで、参加者のボランティア活動に対する意欲を持続したままボランティアとして教育事業に参加させることができた。
- ② 吉備の自然の中で、小さな子供やその保護者と接するといった、初めてのボランティア活動にふさわしい教育事業であったので、新規ボランティアが参加しやすく、他のボランティア活動への意欲に繋がる研修となった。
- ③ ボランティア活動に必要なスキルについての説明を研修の中に盛り込み、実際に活かせる場を活動の中に設定することにより、理論と実践を結びつけることができた。また、実践の中で、技術を身に付けることができたことと参加者の満足度も高かった。

(4) 今後の課題

- ① 新規ボランティアが今後活動していく上で、ぜひ身に付けてほしい事を中心に参加しやすい内容を考え、募集をしたにも関わらず、残念ながら参加者が多くはなかった。ボランティア養成研修の中で次に繋がる意欲を引き出す必要があるので、研修中での働きかけやHPやチラシなどの広報を工夫しなくてはならない。
- ② 直前に「大学での講義が入った。」とキャンセルする学生もいたので、参加者がより多くなるように、途中からの参加も可能となるように送迎の回数を増やしたり、送迎の方法を工夫したりする必要がある。
- ③ 今回の研修内容は、継続ボランティアの生の声を研修の中で反映させる場面が多かったために、継続も新規も参加者の満足度が非常に高かった。来年度もより内容の充実したものを目指すために、所が必要としている内容に加えて、参加者が求めている内容は何かをボランティア定例会で聞き取り、またどの程度盛り込んでいくかを所内で検討する必要がある。

担当：企画指導専門職 佐藤 泰之